

SEED (シード)

Vol.026
2024.11月

令和6年度「駒大生社会連携プロジェクト」も豊かな実りの季節を迎えました。今号では、4つのプロジェクトから寄せられた活動報告をご紹介します。

【産学官連携部門】経営学部 小野瀬 拓先生プロジェクト活動報告

ANAの研修施設「ANA Blue Base」を訪問しました。

オープンキャンパスでの好評を受けて、学生研究展示企画「現在窮乏将来有望」の展示期間延長の準備していた私たちは、ANAの理念を学ぶために研修施設ANA Blue Baseを訪問しました。ANAでは全社員が入社後、この施設で研修を受けるそうです。



私たちが見学した7月30日は墜石事故と同じ日。私たちが最初に見たのは1971年7月30日から大きな事故が起こっていないことを告げる電子時計でした。創業時のヘリコプターやシミュレーター、理念を学ぶエリア「SUMICCO」を見学。その後、同社の安全理念を学ぶエリアで学修しました。施設では現物の事故の機体と当時の映像に触れ、同社の安全理念を学びました。事業において、理念が引き継がれていくことの大切さを感じさせられました。ご案内くださいました辻村貴之様をはじめとするANAの皆様どうもありがとうございました。

今回見学させていただいたANA Blue Baseに私たちの作品が展示されます。次号では、その様子をお伝えします。どうぞお楽しみに。



【産学官連携部門】文学部 藤野 一之先生プロジェクト活動報告

「考古学発掘実習Ⅱ」の授業において社会連携事業の概要について報告、講演会「知ろう！探ろう！古墳時代の榛東村」を開催しました。

社会連携事業の概要について報告しました

本プロジェクトに参加する学生は、9月25日(水)に「考古学発掘実習Ⅱ」の授業において群馬県北群馬郡榛東村に所在する長久保古墳群の活用事業について、考古学専攻3年生に報告を行いました。

今回の報告では、社会連携事業で行ってきた活動内容や目的などを紹介し、本事業の理解を深めました。



講演会「知ろう！探ろう！古墳時代の榛東村」を開催しました

10月5日(土)に群馬県北群馬郡榛東村の榛東村南部コミュニティーセンターにて、本事業で行った調査の成果について地域住民に向けた講演会を開催しました。

講演会ではプロジェクトに参加する学生が、今回の調査を通して得られた成果を踏まえて長久保古墳群の概要について報告しました。このほか、本古墳群から出土した埴輪や須恵器に関する報告を行いました。来場者からは、「興味深い説明を聞くことができ有意義だった」、「学生が主体となった素晴らしい取り組みだと思う」などの好意的な評価を得ることができました。

また、10月6日(日)には今回の講演会について地元新聞である上毛新聞の朝刊にて紹介されました。



【SDGs部門】経営学部 村山 元理先生プロジェクト活動報告

公益財団法人ヤマト福祉財団を訪問、
障がい者福祉の向上についてお話を伺いました。

10月29日、村山ゼミ3年生の9名と教員が東京都中央区銀座にあるヤマト運輸本社ビルにある公益財団法人ヤマト福祉財団を訪問しました。この財団は宅急便の生みの親である小倉昌男氏が私財24億円を投じて障がい者福祉の向上を目的として1993年に設立されました。小倉氏は月給1万円が常識であった障がい者の給与の現状に驚き、月給10万円にあげるための施策の一つとして株式会社スワンも創業させました。

財団の常務理事の井上貴博様から財団の歴史、収支、事業概要など全般的な解説をしていただきました。

ヤマトグループ本体でも3500人の障がい者を雇用しており、社員は賛助会員として財団に寄付もするなど障がい者の支援をする企業文化が根付いています。今でも財団の年収の半分は社員の寄付で賄われています。

スワン代表取締役社長の江浦聖治様から、同社で働く障がい者には長期雇用の人が多くいること、直営店での工夫、タカキベーカリーから仕入れた冷凍パンの利用、クリスマスケーキの販売、その他の事業などについて教わりました。なお近所にあるヤマト運輸本社の新社屋が完成間近であり、西新橋から戻って来るそうです。



【SDGs部門】医療健康科学部 村田 渉先生プロジェクト活動報告

「サイエンスアゴラ2024」にブースを出展！

「放射線リテラシー交流会 僕らのラジエーションアカデミア！」も開催しました。

あらゆる人に開かれた科学と社会をつなぐ広場として開催された「サイエンスアゴラ2024」において、展示ブースを出展しました。約500人の来場者が訪れ、様々な年代の方々に「2次元の医療X線画像から3次元に復元する技術」を体験していただきました。

また、日本放射線医療技術学会大会では、村田研究室の4年生2名が「放射線量ブラックジャック」、金子・新井研究室の大学院生1名が「放射線災害に関する学生の意識と不安の実態調査」について発表しました。新たな知見が得られ、また発表を通じて様々な方と交流する貴重な機会ともなりました。

さらに、11月9日には、理系や医療系に興味を持つ中高生を対象に、放射線について楽しく学ぶイベント「放射線リテラシー交流会 僕らのラジエーションアカデミア！」を開催しました。イベントでは、学生による放射線リテラシー講義や環境省の方からの国の放射線風評対策に関する講演が行われました。また、医療機器の見学、線量測定体験もあり、中高生の積極的な姿が印象的でした。その中高生の姿に刺激を受け、私たち自身も放射線についての理解を深める良い機会となりました。



サイエンスアゴラでの展示の様子



「放射線リテラシー交流会 僕らのラジエーションアカデミア！」の様子

駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、
社会連携センターのホームページでご案内しております。 → 社会連携センター「[お知らせ](#)」